

2021年1月25日

村の復活を考える。

これは村ができる程度の人口を持つ集団を作ることである。現在先の見えない、袋小路にはまったような社会情勢を解決するために、かつての村を復活することが重要かもしれないと考えている。発端は人口減少を止めることができない社会は何が必要なのかという点である。昔の村社会というのは子供も村の共有物として子供を村全体で育てた。女性も村全体の共有物という見方もあったかもしれない。つまり男性には常に夜這いの習慣があり、女性の子どもが誰の子か明確でないこともあったろう。子供を産むのは女性であるため一義的には女性が子供を育てることになる。しかしながら夫はだれかわからない状況であったのだろう。こうなると子育ては女性がするにしても、経済的には生計を立てることが困難になってくる。また常に子供の面倒をみることもできないため村を存続させるということからも、近所の人が共同で母子の面倒をみざるを得なくなる。村としても子供が少なくなると村そのものが壊滅する危機に陥る。夜這いという習慣もこうしたことから必然的に生じてきたのだろう。いずれにしても村は、将来村の重要な構成員となる子供を増やさなければ消滅してしまうのだから！この様子は現在とほぼ同じである。都会人は現在夫婦で子供を産んでも育てられない。教育費なり、生活費を稼ぐための時間が取れない。こうなると現在の都市では子供を設けることにより生活水準が相当低下し、家庭貧困や子供の貧困が伴い将来にわたって、子供はできるだけ減らすことになる。一昔前は現在と違って何世代かが同居して暮らしていたため子育てを行うにしても爺ちゃん婆ちゃんが面倒を見ていたこれにより両親は生活するための糧を得ることが可能になった。裕福な暮らしはできないにしても子供を何人か育てることができた。私の時代、昭和の頃はまだ周りに一代、二代の家族がおり、また周りには親戚の方たちが住んでいた。このため我が家は3人兄弟であり、特に珍しい家族構成ではなかった。が現在はほとんどが核家族化してしまい、これが不可能になってきた。こうしたことから、現代で子供の減少を食い止めることはほぼ不可能である。昔の村というのは子供を増やすために夜這いも含めて村全体で子供の面倒を見てきたと思われる。決して夜這いの習慣も復活しろということではないが、以前の村単位の子育て機能を充実させないと人口減少は食い止められないのだろう。また政治も村単位のレベルで行うことが最も充実した行政を行えるのではないかと思われる。しかしながら大規模な財政支出も必要となることから村単位の行動を各村間の調整が必要となることも考える必要があると思われる。こうした村程度の規模の集団を近年再度検討してもいいかもしれないと思う。肥大化してしまった国、都市というものを再度村単位のレベルから構築しなおす必要があるようだ。村単位でさえ人口減少が起これば先に述べた夜這いという習慣が必要であったのだろう。また同族婚による障害を防ぐため、よその地域からくる旅人をもてなす夜伽という習慣も必然的に起これ、最悪、場合によっては別の村を襲撃して女性を略奪してくるような習慣もあったのだろうと思われる。こうしたことにより村の血統に新しい血を迎えていたのかもしれない。こうしたことも村レベルの組織を構築するときには必然的に検討していく必要のあるものかもしれない。全くそのままの形である必要はないが！

これはエネルギー政策でも同じことは言える。以前示したことがあるかもしれないが、エネルギーの供給と需要の単位も村レベルで考えることが良いのではないかと考えている。いわゆる大規模発電所を作るのではなく、1000～2000戸単位で供給基地を作り、その地域でエネルギーを消費する方式だ。このため小規模発電所を各地に作る必要があるものの、原発の様な大規模な発電所はいらない。特に福島原発の電力の大部分が東京に供給されており、危険な原発が福島にあり直接福島に関係ない事故を起こした。小規模発電所では、その地域で消費できる規模の発電所を作ればよい。もちろん自然エネルギーを優先活用すればよい。特に日本は自然エネルギーが豊富である。もちろん種類だけの発電方式ではなくエネルギーはミックスして活用すればよい。もちろん石油エネルギーも使うことを考えてもよいと思う。この場合は大気汚染を十分考慮しなければならないが！原発には頼らないことが前提だ。

原発は人間の制御能力を超えている。またその地域の発電所が故障した場合でも現在のネットワークと同様な方式を導入することは必要だが、特にインターネット方式等のよい例がある。エネルギーにおいても地産地消方式が有効と思われる。その地域に使うエネルギーは土地の供給も含めその地域で負担することが必要となる。このエネルギーの地産地消をおこなえる規模も、先に述べた村レベルの規模が適当ではないかと考える。

こうしたことから再度村の復興を考えるべきではないかと思われる。全ての行政単位を村レベルで考えることである。もちろん村落間の行政にまたがる、いろいろな問題もあると思うが解決できる問題ではないかと思う。人口減少問題、エネルギー供給問題を考えるうえで、昔の村の概念を今一度考えてみる価値があるのではないだろうか？多分村を基軸とした連合社会の必要性を考えるべきだろう！勿論現代では多国間に対応する必要があるため、アメリカ型の合衆国制も参考に、必ずしも理想とは思えないが、村の連合をどう考えるかということも重要である。